

公益社団法人 日本技術士会 神奈川県支部
第 42 回テクノセミナー 実施報告書

開 催 日	2026 年 05 月 18 日(月)
開 催 時 間	13:00～16:30
名 称	第 42 回テクノセミナー 『「技術」で拓く、健康長寿と安心の社会 ～“かながわビジネスオーデション”受賞企業による最新医療テクノロジー～』
主 催 者 等	主催: 日本技術士会 神奈川県支部(担当委員会: 地域広報小委員会) 後援: 公益財団法人 神奈川産業振興センター
開 催 場 所	波止場会館(5 階多目的ホール)、Web セミナー併用
行 事 内 容	「かながわビジネスオーデション 2026」の受賞企業 3 社をお招きした。 口腔ケアロボット技術(会場での実演あり)、どこでも高度医療が受けられる ICU 遠隔システム、画期的ながん治療薬と神奈川から世界へ羽ばたく最新技術のお話をについて講演頂いた。講演後も活発な質疑応答が行われた。
参 加 人 数	<講演会>会場:21 名、Web セミナー:17 名、合計 38 名 (会員 28 名、準会員:1 名、未加入:0 名、一般:9 名)
講演会概要	講演会(13:00～16:30) ○口腔ケア革命—口腔ケアロボット g. eN で拓く未病改善と健康長寿社会 ロボット技術によるヘルスケアへの新たなアプローチとして「口腔ケアロボット g. eN」が切り拓く未病改善と健康長寿社会の可能性についてご紹介頂いた。 講師: 株式会社 Genics 栄田源氏 ○遠隔 ICU から始める地域医療構想への貢献 地域での重症患者の搬送判断、治療終了後の下り搬送や在宅終末期における遠隔医療の普及を目指した取り組みをしていくことで、地域全体の医療提供体制取り組みをご紹介頂いた。 講師: 株式会社 CROSS SYNC 高木俊介氏 ○かながわから世界へ—世界初フェロトーシス誘導性抗がん剤 がん治療の新たな可能性を切り拓く、フェロトーシス創薬に挑む FerroptoCure についてご紹介頂いた。 講師: 株式会社 FerroptoCure 大槻雄士氏
アンケート結果	<アンケート回答数: 17 通、アンケートの回収率(対参加者数:46%)> 1. この講演会の開催を何で知りましたか? 神奈川県支部からの同報メールが 52.9% ① 神奈川県支部からの同報メール:9 名 (52.9%) ② 商工会議所、神奈川産業振興センター等の案内:3 名 (17.6%) ③ 日本技術士会のホームページ:3 名 (17.6%) ④ 委員会:1 名 (5.9%) ⑤ 知人・友人・会員からの情報:1 名 (5.9%) 2. 今回の講演会に参加しようと思われた動機は? 「講演テーマに興味があった」が 70.6%を占める ① 講演テーマに興味があった:12 名 (70.6%) ② CPDの一環として:2 名 (11.8%) ③ 無料だから:1 名 (5.9%) ④ ビジネスオーデションのファイナリストが講師だったから:1 名 (5.9%) ⑤ 仕事上に役立つから:1 名 (5.9%) 3. 本日の講演会の貴方の満足度は? 8 割以上が満足(普通も含めて 10 割)。 ① 満足:14 名 (82.4%) ② 普通:3 名 (17.6%) ③ 物足りない:0 名 (0%)

4. 講演の感想

(株式会社 Genics への感想例)

- ・実物も持ってきていただいて、説明もわかりやすかった。
- ・多くの失敗を乗り越えて、デリケートな動きが必要な口腔ケアロボットを完成させたことに感服しました。
- ・去年の今頃は自分も入院して歯磨きしてもらっていたので、手をつかえない患者の病棟に普及させてほしいと痛感した。

(株式会社 CROSS SYNC への感想例)

- ・難しい内容かと想像していたが、わかりやすく、日本の医療業界の課題もよく理解できた。
- ・現場への適用のリアルを踏まえて、組織論や、コミュニケーションにも留意した取り組みに感心した。
- ・遠隔 ICU は、今後の大きな課題と感じていたので興味深かった。誰もが平等に、また人材、へき地医療、情報セキュリティ等様々な要素を含んでいるため、他にも通じる課題として勉強になった。

(株式会社 FerroptoCure への感想例)

- ・あまり知見のない分野だったのですが勉強になりました。
- ・開発の想いに感銘した。実用化までの治験が長いが頑張してほしい。
- ・日本発の画期的な抗がん剤として、世界での実用化を実現して下さい。

(講演全体への感想例)

- ・皆様の事業がなぜオーディションで評価されたのか理解が深まった気がした。社会課題の解決に向け是非実現していただきたいと感じた。
- ・医療関連でこれらの先進的なスタートアップが存在していることを初めて知り、参考になりましたし、大変刺激になりました。
- ・ICU〜一般病棟、リハビリ病院と入院して他のいろんな患者さんをみてきたので、今回のすべての技術が早く実装されてほしいと思った。

5. アンケート回答者の専門分野、所属

(1) 専門とする分野(総合監理部門は専門分野でカウント)

電気電子3名、建設3名、機械2名、総合技術監理2名、化学1名、金属1名、経営工学1名、情報工学1名、原子力・放射線1名、神奈川産業振興センター1名、一般参加1名

会計報告

2026/6/29									
区分				金額(円)	詳 細 内 容				
					単価	人数	人数計	備考	
本部会計	収入	補助金 (A)		113,870					
	支出	会場費		19,800					
		講演者謝金		90,000		3	3	源泉込み ¥30,000×3	
		講演者交通費							
		振込料		1,485		3	3	講師謝金振込手数料 ¥385+¥550+550	
		郵送用チラシ作成代		2,460					
		会場配布資料作成代		125				県支部コピー機で作成	
		会場費振込料		0					
	小計 (B)			113,870					
本部会計	収支 (A-B)		0						
支部会計	収入	正会員	会場徴収	0	2,000	0	38	会場参加正会員: 16名 (うち会費免除4名)	
			振込	46,000	2,000	23		Web参加正会員: 12名 (うち会費免除1名) 計 28名	
			委員会	0	0	5		実務担当者(参加費免除)5名	
		準会員	振込	2,000	2,000	1			
		未入会技術士	振込	0	3,000	0			
		未入会一次合格者		0	3,000	0			
		一般/官公庁		0	0	9		会場5、Web4名	
		小計 (C)		48,000					
	支出	講師飲料代金		258					
		会場費 (リハーサル、準備)		11,000					
		印刷代振込料		0					
		チラシ送付用封筒代、切手代		2,050					
		小計 (D)		13,308					
	支部会計	収支 (C-D)		34,692					

運営上の課題	1. 広報関係 同報メールのシステム障害により配信が遅れたことに加え、ゴールデンウィーク直後の開催であったため、十分な周知期間を確保することができなかった。一方で、機械部門をはじめとする各部門からの同報メール配信の協力により、必要な参加者数を確保でき、講演会を問題なく開催することができた。今後は、ビジネスオーディション受賞者決定から講演会開催までの期間に余裕を持たせ、十分な広報期間を確保する必要がある。 2. 講演関係 1) 口腔ケアロボットの実演映像を中継するためカメラを使用した。Web 配信画面には映像を表示できたものの、会場の投影画面には表示することができなかった。今後、会場で実演映像を投影する場合は、事前の接続確認や表示方法の検討が必要である。 2) 講演中にマイクの音声途切れの事象が発生した。当初は電池切れが原因と考えられたが、講演中に誤ってチャンネル設定を変更してしまったことが原因であった。今後は、マイク使用中に設定ボタンへ誤って触れないよう注意する。 3. その他 ビジネスオーディション受賞者の発表(2月)から5月のテクノセミナー開催までの期間が短く、十分な準備期間を確保することが難しかった。来年度以降は、より余裕を持った準備ができるよう、7月開催のテクノセミナーで実施することが望ましいと考える。
--------	--

—以上—